九州大学
九州大学広報室
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
TEL:092-642-2106 FAX:092-642-2113
MAIL:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
URL:http://www.kyushu-u.ac.jp/

PRESS RELEASE（2007/05/18）

インターネットに関する日韓共同研究　～毎年のべ約５００名以上の研究者が交流～

概　要
九州大学は平成１５年度から学術振興会の拠点大学事業の一つである「日韓次世代インターネット技術のための研究開発と実証実験」を進めてまいりましたが、第１期（平成１５年度から１８年度）に続き、第２期（平成１９年度から２２年度）もその活動が認められました。本事業は、日韓のインターネットに関する研究者が毎年のべで５００名・日以上交流する国際大事業であります。

■ 背　景

福岡には、日韓で共催したサッカーのワールドカップの時に九州電力を中心にして整備された韓国との光ファイバ設備があります。この光ファイバを用いた日韓での高速インターネットに関する研究が平成１２年から九州大学を中心にして玄海プロジェクトという名前で行われてきておりました。この研究活動が認められ、平成１５年度から学術振興会の拠点大学事業「日韓次世代インターネット技術のための研究開発と実証実験」の拠点大学に九州大学が選定され、九州大学を中心にしてインターネット基盤技術、遠隔医療、セキュリティ、デジタルライブラリ、などの最先端な研究活動が日韓の研究者によって行われました。この拠点事業の成果は、平成１８年度に学術振興会によって評価され、平成１９年度から再度４年間継続して行われることになりました。

■内　容

本事業の研究課題は、次にあげる５つのものがあります。

1. 次世代インターネット基盤技術の研究開発
2. 次世代インターネットを用いた遠隔医療の開発と臨床応用
3. インターネットにおける情報セキュリティ技術の研究開発
4. インターネットを介した仮想現実空間構築技術の研究開発
5. インターネット上における高度次世代応用に関する研究

本拠点事業は、日本・学術振興会と韓国・韓国科学財団の共同事業です。日本の研究者の研究費は全て学術振興会が支援し、また、学術振興会は韓国の研究者が来日した際の滞在費もまた支援します。

■効　果

本事業の特徴は、研究者の交流に最大の焦点をあてていることです。通常の研究は、上記であげた研究課題ごとに行われておりますが、年に２回、日韓で１００名程度の研究者が一堂に会するセミナーを、韓国と日本でそれぞれ開催し、より親密な交流を実施しています。

本事業では、特に若手教員・学生（准教授、助教、大学院生）の交流を支援しています。通常、若手教員・学生が海外で研究発表をする機会は、年に１，２回だと思いますが、この事業では、多い方で年に数～十数回韓国を訪れ、韓国の先生と共同研究を進めています。また韓国の先生も頻繁に来日されます。これによって、研究ももちろん遂行されますが、加えて、若手教員・学生の国際的な感覚が磨かれていると思います。

■今後の展開

第２期では、博士課程の学生に加えて、修士学生の支援も可能になりました。昨年度までは修士学生

は来日された韓国の先生から国際化を学んでいましたが、平成１９年度からは自らが韓国を訪れ様々な体験ができる可能性があります。通常、修士課程の学生が海外出張にける機会は非常に限られていると思いますので、本事業を利用して多くの体験をして欲しいと思います。

本事業では研究活動はもちろんですが、韓国人あるいは韓国社会・文化に深く触れる機会も多く、また韓国人が日本のことを学びなおす機会も多いのです。本事業に関わった若手教員と学生が日本と韓国の将来の新しい人間関係に寄与できる期待もあると思います。本拠点大学事業の目的の一つにはそのような人間関係の拠点の形成ということもあります。

【お問い合せ】
情報基盤研究開発センター 准教授　岡村耕二
電話：０９２－６４２－４０３０
FAX：０９２－６４２－４２３２
Mail： oka@ec.kyushu-u.ac.jp

交流分野: インターネット

相手国: 韓国

研究課題名: 次世代インターネット技術のための研究開発と実証実験

日本側代表者

有川節夫

九州大学・理事

日本側コーディネータ:

岡村耕二

九州大学・情報基盤研究開発センター

共同研究と研究交流ネットワークの構築

- 九州大学
  - 有川節夫理事
  - 岡村耕二助教授
- 早稲田大学
  - 後藤滋樹教授
- 東京大学
- 京都大学
- 大阪大学
- 北海道大学
- 国立情報学研究所
- 慶応大学
- 筑波大学
- 九州工業大学
- 大分大学
- 長崎大学
- 佐賀大学
- 宮崎大学
- 岡山大学
- 九州産業大学
- 筑紫女学園大学
- 九州情報大学
- 長崎総合科学大学
- 岩手県立大学
- 情報通信研究機構
- 九州国立博物館
- 飯塚病院

次世代インターネット基盤技術の研究開発
- •玄海プロジェクト
- •HIJK Project (日本QGPOP,韓国KESG)
- •APAN, APII
- •学術振興会163委員会
- •SINET, WIDE Project, JGN2

次世代インターネットを用いた遠隔医療の開発と臨床応用
- •APAN (tele-medical)
- •AQUA

インターネットにおける
情報セキュリティ技術の研究開発

インターネットを介した
仮想現実空間構築技術の研究開発
- •APAN (eCulture Project)

インターネット上における高度次世代応用に関する研究
- •日韓高度図書連携：九大、釜山大学

- 忠南大学
  - Kim DaeYoung教授
- 韓国科学技術院
- ソウル大学校
- 高麗大学校
- 漢陽大学校
  - Park Yon g Jin教授
- 慶北大学校
- 慶熙大学校
- 全南大学校
- 韓国情報通信大学校
- 光州科学技術院
- 成均館大学校
- 梨花女子大学校
- 建国大学校
- 濟州大学校
- 国立癌センター
- 韓国科学技術研究院
- 忠北大学校
- 順天郷大学校
- 慶南大学校
- 韓国先端網協会
- 釜慶大学校
- 釜山大学校
- 全北大学校
- 世宗大学校
- 慶尚大学校

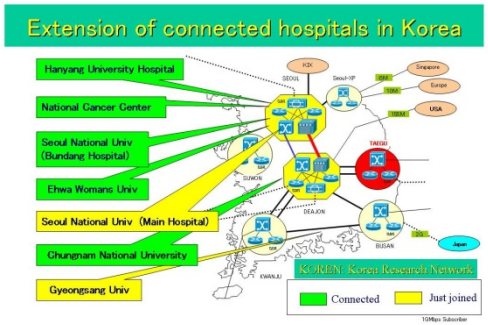
学術的な成果

次世代インターネット基盤技術の研究開発
- •玄海プロジェクト
- •HIJK Project (日本QGPOP,韓国KESG)
- •APAN, APII
- •学術振興会163委員会
- •SINET, WIDE Project, JGN2

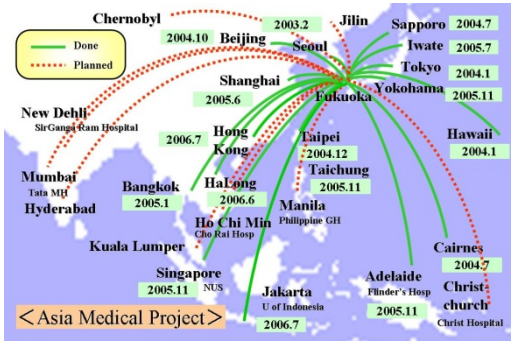
ブロードバンド型応用を支援する技術
- •経路情報、フローデータの高度解析技術
- •非圧縮HD伝送といった超次世代応用の挑戦

次世代インターネットを用いた遠隔医療の開発と臨床応用
- •APAN (tele-medical)
- •AQUA

次世代高速インターネットを利用した次世代遠隔医療の実証実験を通じた、ネットワーク技術の研究開発、新しい応用の追及



全韓国



全アジア・世界に通じ、リードできる技術の研究開発を遂行

この遠隔医療の共同研究は、日韓のマスコミにも取り上げられ、実用性が示されている。

若手研究養成

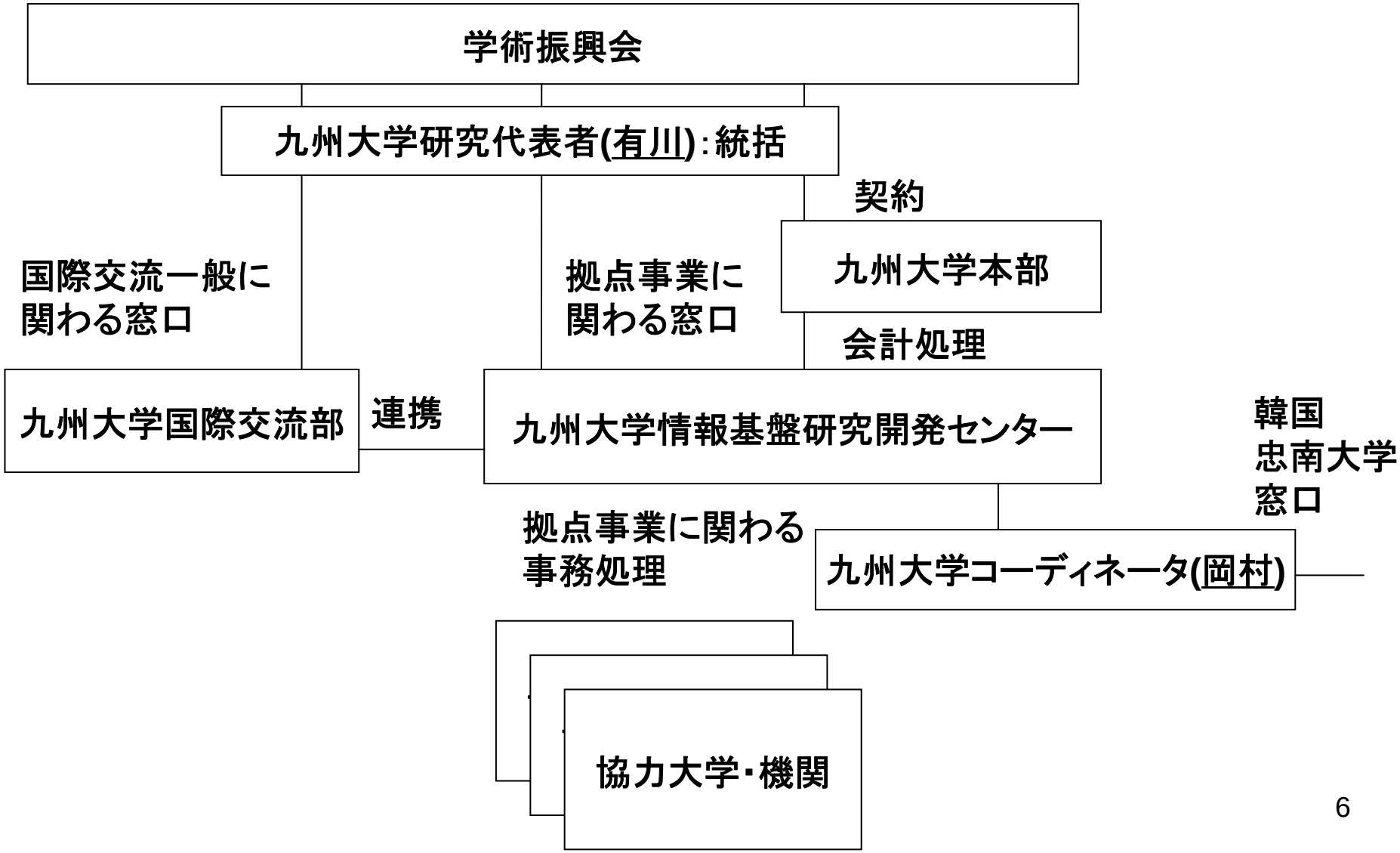
- メンバー構成
  - 日本側
    - 教授 24
    - 准教授 33
    - 助教 21
    - 博士学生 5
  - 韓国側
    - 教授 35
    - 助教授 35
    - 助手 6
    - 博士学生 7

- **<u>若手研究者の研究の推進</u>: 本拠点事業は、主に若手(准教授・助教クラス)によって遂行され、本事業によって若手研究者の国際性、研究の高度化がなされた。**
  - 国際共同研究・セミナーの機会の多さ。
- **<u>若手研究者の日韓の人間関係の構築</u>: 若手(准教授・助教クラス)間で、人的な深いつながり、日韓での人的な信頼関係が形成された。**
  - 研究用の重要なデータを日韓の研究者同士で交換している。
- **<u>将来の若手研究者への大きな影響</u>: 共同研究時における日韓での研究室単位でのセミナー**
  - 学部生、修士学生の国際交流の経験、研究の国際化の推進。
- **<u>グローバルな観点</u>: インターネットに関する国際共同研究開発体制で、他の例では見られないような共同研究体制を国際間で築くことに成功した。**
  - APAN (Asia Pacific Advanced Network)で、中国、シンガポール、タイなどの他国とうまく連携するための参照モデルになっている。

期待される成果

- **日韓のインターネットに関わる多くの研究者の友好な人間関係の維持。**
  - 特にこの４年間で築かれた若手研究者の友好な人間関係が次の４年間で社会的にさまざまな側面で役に立つことが期待される。
- **この4年間で始まった日韓研究者間の信頼関係に基づいた各研究開発の熟成による、実用的な国際的に耐えうる技術の研究開発の期待。**
  - インターネット基盤技術
    - 対欧米技術の期待、アジア内でのリーダーシップ
  - インターネット次世代応用技術
    - インターネット上での医療、図書館、博物館、科学、文化活動
- **自治体・民間などを通じた、研究開発成果の還元。**
  - 福岡－釜山フォーラム
    - 経済、教育に焦点をあてた民間主導の会議ではあるが、本事業が、そのブレイン的な役割を果たす。
  - 福岡は実質的な韓国との窓口であり、このような日韓プロジェクトに展開する機会は非常に多い。
- **インターネットに関する国際共同研究開発体制の手本。**
  - アジアの他国の見本、あるいはこの分野における強いリーダーシップをとっていくことが期待できる。

九大における体制


学術振興会
九州大学研究代表者(有川):統括
契約
国際交流一般に
関わる窓口
拠点事業に
関わる窓口
九州大学本部
会計処理
九州大学国際交流部
連携
九州大学情報基盤研究開発センター
韓国
忠南大学
窓口
拠点事業に関わる
事務処理
九州大学コーディネータ(岡村)
協力大学・機関

Genkai Project

A Community

- ・Human Exchange
- ・Project Exchange

2001年　2002年　2003年

2004年　2005年　2006年

APAN

CoreNGI

API

INTERNET2

① Jul. 01

仁川
22 Apr. 06
API

⑧Dec. 02

ソウル
20 Sep.06
CoreNGI
API

大田
⑥May. 02

光州
⑩May. 03

④Nov. 01

釜山
⑪Aug. 03 APAN

③Aug. 01

北九州
⑤Mar. 02

済州島
⑱Apr. 05

福岡
⑨Jan. 03
APAN

⑦Oct. 02

長崎
⑫Nov. 03

大分

②Aug. 01
ペナン・マレーシア
APAN

CoreNGI
⑭May. 04
⑯Nov. 04
API

東京
21 Jan. 06
APAN

CoreNGI

台北・台湾
⑲Aug. 05
APAN

ハワイ・米国
⑬Jan. 04
APAN
INTERNET2

バンコク・タイ
⑰Jan. 05
APAN

シンガポール
23 Jun. 06
APAN

CoreNGI
API

ケアンズ・オーストラリア
⑮Jul. 04
APAN

学術振興会 拠点大学事業
次世代インターネット技術のための研究開発と実証実験 2003-

CoreNGI

2003年11月 第4回セミナー
韓国・大田 学振163委員会(ITRC)と共同開催

2006年1月 第6回セミナー
APAN 東京と共催、APANにも40名以上の韓国人研究者が参加

参加機関:
九州大学、忠南大学、早稲田大学、九州産業大学、長崎大学、大分大学、佐賀大学、宮崎大学、京都大学、国立情報学研究所、東京大学、大阪大学、慶応大学、九州工業大学、広島大学、広島市立大学、情報通信研究機構, 筑紫女学園大学, 北海道大学, 九州情報大学, 長崎総合科学大学、韓国科学技術大学校、ソウル大学校、高麗大学校、漢陽大学校、慶北大学校、慶熙大学校、全南大学校、韓国情報通信大学校、光州科学技術院、成均館大学校、梨花女子大学校、建国大学校、濟州大学校、国立癌センター、韓国科学技術研究院、忠北大学校、順天郷大学校、慶南大学校、韓国先端網協会、釜慶大学校、釜山大学校、全北大学校、世宗大学校、慶尚大学校

日韓合計で研究者が、毎年のべ年間約500名・日くらい交流し、次世代インターネットの共同研究を行っている。